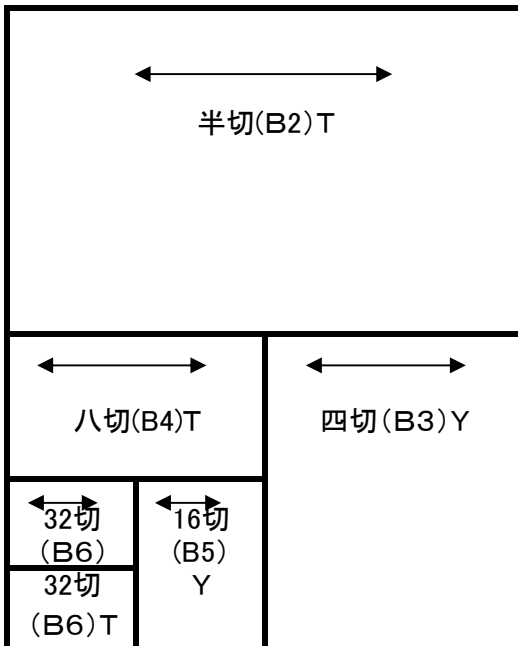


製本のススメ

Vol. 27

あわただしい3月を超えて、ようやく待ちに待ったGWですね。今年は大型連休ですとTVでは言っていますが、皆さんはどうでしょうか？

今回は紙目と本の関係についてのお話



用紙の紙目は**短辺に平行を横目(Y)**と呼び また**長辺に平行な紙目の流れを縦目(T)**と呼びます。左図では**上が全判で横目・下が縦目の用紙**ですが加工する冊子のサイズや用途により縦横の表現の仕方が変わります。製本のススメでは、何度か紙目のお話しをしてきましたが、この辺りが勘違いの素のようです。

四六判を例にして、**B6縦型の本を16頁掛け**にて印刷(表8面・裏8面)するとしましょう。この場合は**四切横目(上図)の用紙に印刷**をすればB6の縦型で、紙目もB6の本になった時に天地に流れています。しかし**B6横本の場合**には、下図にあるように**四切縦目**に印刷しなければなりません

B5判で16頁掛けであれば、**半切横目に印刷**しますと本になった時(B5)天地に紙目が流れて、開きのよい綺麗な本になります。しかし**同じB5仕上がりでも、8頁掛けにて印刷の場合には四切縦目(下図)に印刷**でなければなりません

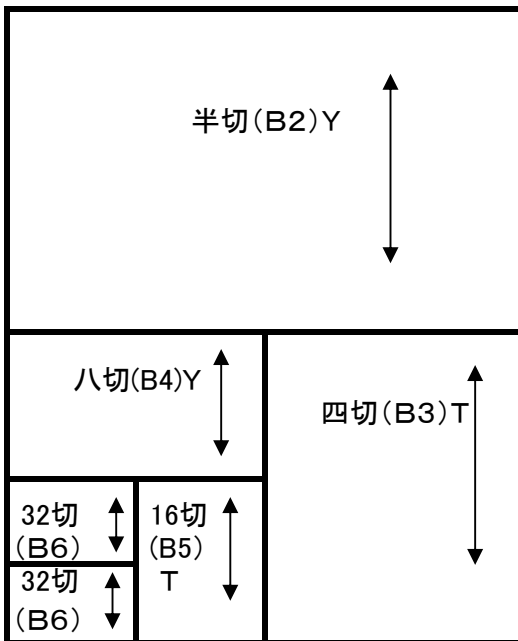
見返しは、あくまでも2つ折りにして使うものですので、B5であれば、B4(八切)で取らなければなりません(下図) 1面で紙を発注の場合は横目として、また大きな判で取るときには**半切ならば横目・四切ならば縦目**というように紙目の指示を出す必要があります。

製本加工では、紙目に大きく仕上がりの良さが影響されます特に上製本では、顕著に現れますが、並製本であっても背中に糊をつけてくるむ物や、貼り込み別丁などが有る物は**糊の水分により、紙が伸びてシワや変形が起こり、良い仕上がりになりません。**

中綴じ加工であっても、ペラやハガキの貼り込がある場合には例外ではありません。

上製本では、表紙印刷を含め、どの作業工程でも**例外ではありません。**

折り加工についても紙目の影響は強く、2ツ折でさえも綺麗に折ることが出来ず、背割れの原因ともなります。



うーん 今月のススメは難しいですが、これが出来れば印刷人度は、かなりアップです！
by (株) 井関製本